

すべての人に移動の自由と笑顔をもたらす自動運転の実現。 技術開発の重点領域を見定め、成果を着実に積み上げていきます。

SIP自動走行システムで取り組む4つの重点領域

Mobility Bringing Everyone a Smile ～すべての人に笑顔を～

本プロジェクトでは **I** 大規模実証実験を軸とした研究開発 **II** 地方展開・産学官連携 **III** 国際連携・標準化活動 **IV** 事業化・ビジネスモデルの構築 の4つの柱を中心に研究開発に取り組んできました。自動車会社や部品サプライヤー、大学・研究機関等に加え内閣府と内閣官房及び警察庁・総務省・経済産業省・国土交通省が連携して推進しています。

I 大規模実証実験を軸とした研究開発の推進

産学官共同で取り組むべき5つの技術課題(協調領域)に重点を置いた研究開発を推進

- ①ダイナミックマップの開発
- ②HMI*ガイドラインの策定に向けた研究
- ③情報セキュリティ評価手法の開発
- ④歩行者事故低減のための基盤技術の開発
- ⑤次世代都市交通への展開

※HMI：Human Machine Interface

II 地方展開・産官学連携

- 上記重要5課題について、多くの自動車メーカー等の参加のもと、公道の実交通環境下において技術実証〈地方展開の推進〉
- 沖縄における自動運転バスの技術実証
- 中山間地域における「道の駅」等を活用した自動運転サービス

III 国際連携・標準化の推進

国際ワークショップの開催、国際会議における標準提案等、国際連携・標準化に向けた取り組みを積極的に推進

IV 事業化・ビジネスモデルの構築

ダイナミックマップの多目的展開やビジネスモデルの検討等、研究開発成果の実用化や事業化に向けた取り組みを積極的に推進



内閣府SIP自動走行システム (SIP-adus) プログラムディレクター

くずまき せいご
葛巻 清吾

トヨタ自動車(株) 先進技術開発カンパニー 常務理事

1985年に京都大学で航空工学の修士号を取得。同年、トヨタ自動車に入社。2003年から、トヨタの車両技術開発部の車両安全機能スーパーバイザーとして技術計画と技術開発を担当。2014年から2年間SIP「自動走行システム」(SIP-adus)プログラムのサブPDとして任命された後、2016年にPDに選任。

